



金沢駅西広場



金沢駅西広場完成にあたって

金沢市長

山野 之義



平成22年10月に着工して以来、3年半の歳月をかけた金沢駅西広場再整備事業が完成の運びとなりました。

金沢駅西広場は、当初、平成3年に本市施行の駅西土地区画整理事業により造成されました。しかし、その後、駅西新都心の市街化の進展など駅西広場を取りまく状況が大きく変化したため、交通結節点としての機能強化や利便性の向上に資する、新しい金沢の玄関口としてふさわしい機能と景観を備えた広場として再整備することとしたものです。

整備にあたり、学識経験者、関係機関、地元関係団体の皆様に論議を重ねていただきました。その結果、駅西広場を都会的で明るく開放的な広場として位置付けることとしました。

新しい駅西広場は、人を中心とした人のための広場であり、環境にやさしい広場でもあります。バリアフリー化を図るとともに、太陽光発電パネルやLED照明を採用するなど環境にも十分配慮しました。ゆとりある歩行空間を確保するとともに、雨や雪に濡れずに移動できるよう全ての乗降場にシェルターを設置し、また、地域の皆様はじめ多くの方々が利用でき、集い、賑わいの創出に繋がるイベント広場も新たに整備しました。

一方、交通機能の充実にも意を用いました。バスやタクシー、自家用車などの各交通施設は、適正な規模を確保しながら、公共交通を優先とした配置とするとともに、それぞれの車線を明確にしました。併せて、団体バス専用の乗降場を設けることにより、広域交通の強化に資することとしました。

こうした機能性の向上はもとより、駅舎正面のキャノピーの天井には金箔や杉板を、イベント広場のステージ周りには戸室石を使うなど、金沢らしいイメージを醸し出す、新しい金沢・駅西新都心の玄関口としてふさわしい「顔」が出来上がったものと自負しております。

今後、この駅西広場が、北陸新幹線開業後を見据え、人・モノ・情報の交流拠点として、地域の活性化に大きな役割を果たすよう、切に願っております。

むすびに、本事業の推進にあたりご協力いただいた関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、この広場が皆さまに愛され続けることを心から祈念してご挨拶いたします。

平成26年3月



計画の背景と考え方

背景

- 金沢駅西広場は、平成3年3月に金沢駅西土地区画整理事業により「交通処理機能」を有する駅前広場として開設されました。
- しかし、その後の社会情勢やニーズの変化に伴い、都市景観や駅周辺の賑わいに乏しいことに加え、広場内のバス・タクシー・一般車両の輻輳による混雑が生じていること、バリアフリーへの対応が不十分な点が指摘されてきました。
- その後の駅西新都心における整備や開発が進むなか、平成27年春の北陸新幹線金沢開業が決まり、金沢の都心軸上の重要な交流拠点として位置付けられる金沢駅西広場において、利用者増加への対応や交通結節点としての機能強化が求められていました。



目的

- 金沢駅西広場では、こうした背景を踏まえ、広場機能の充実と利用者の快適性や利便性の向上を図ることを目的として、新しい金沢（駅西新都心）の玄関口にあふさわしい機能と都市景観を備えた広場の再整備を行うこととなりました。

基本方針

駅西地域の玄関口としてふさわしい広場の顔づくり

- ① 駅西新都心の創造拠点「新しい金沢」の都市景観の形成
- ② 駅とまちの賑わいをつなぐ地上動線の確保
- ③ 人々の集い・憩い・賑わいを創出する環境空間の確保

適正な施設規模の確保、安全で快適な交通機能の充実

- ① 駅西地域の発展に対応した施設規模の確保と交通結節点としての機能の充実
- ② 各交通施設の特性に応じたゾーニングと動線の配置
- ③ 公共交通の乗り換え促進を図り、使いやすく快適な交通環境の整備

人や環境にやさしい広場の整備

- ① 歩行者を優先とした広場環境の整備
- ② 自然のやすらぎや潤いを感じる緑豊かな環境の整備
- ③ 都市と自然が共生する環境負荷低減に配慮した施設の整備

整備のポイント

玄関口にふさわしい顔づくり

① 駅西地域の玄関口にふさわしい景観の形成

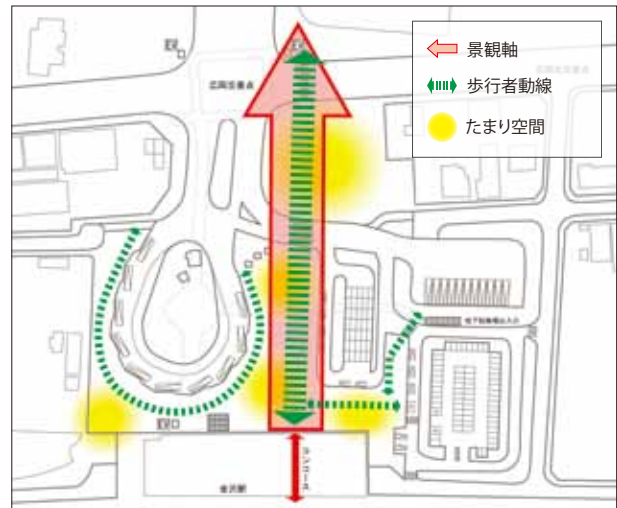
- コンコース正面からの見通し(景観軸)を確保した明るく開放的な広場の整備
- モニュメントへの眺望確保

② 駅とまちの賑わいをつなぐ歩行空間の確保

- コンコース正面から50m道路を結ぶ地上歩行者動線の設置
- 歩いて楽しい歩行空間の整備

③ 集い・憩い・賑わいを創出するたまり空間の確保

- 日常使用に対応した空間の確保
- イベント使用に対応した空間の確保
- 憩いを提供する施設の整備



交通機能の充実

① 駅西地域の発展に対応した施設規模の確保

- 公共交通の機能強化
- 広域交通の機能強化
- 一般車送迎の機能強化
- 自転車駐車場の確保(地下空間の活用)

② 円滑な交通機能の確保

- 公共交通の乗り換え促進
- 円滑な交通動線の確保と適正なゾーニング

③ わかりやすく利用しやすい広場施設の整備

- 安全でゆとりある乗降空間の整備
- 円滑に移動できる案内機能の整備



人や環境にやさしい広場

① 歩行空間のバリアフリー整備

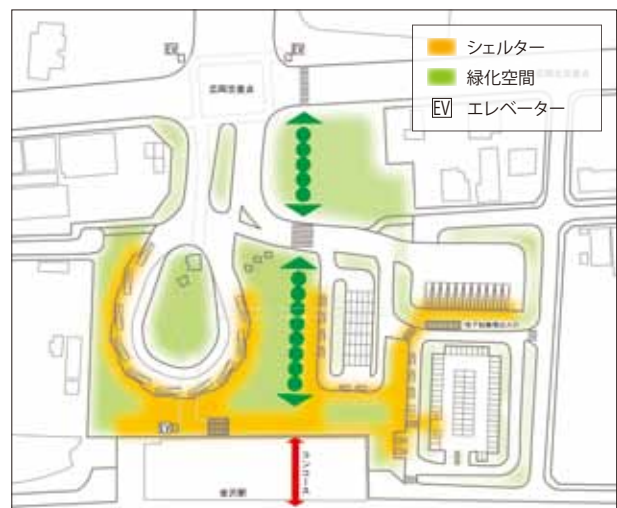
- 濡れずに移動や乗降ができるシェルターの設置
- 積雪時も安全に移動できる無散水消雪の整備
- エレベーターの設置
- 認識しやすい視覚障害者誘導用ブロックの設置
- 段差の解消

② 緑豊かな環境空間の整備

- 緑の量感を増やし、自然のやすらぎや潤いを肌で感じ取れる空間の整備

③ 環境負荷低減への取組み

- 地球温暖化対策
- クリーンエネルギーの使用
- 省エネルギー化
- ヒートアイランド対策





施設配置・動線の計画

- 「わかりやすく、快適に利用しやすい施設の配置」と「車両動線の輻輳を解消した安全な交通環境」とするための施設配置と動線を計画しました。

施設配置計画

- 公共性の高い交通施設（路線バスやタクシー）をコンコース近くに優先的に配置
- 交通集中によるバスの混雑を解消するため、路線バス乗降場と団体バス乗降場を分離して配置
- ゆとりある乗降空間を確保するため、一般車駐車場とタクシー乗降場を分離して配置
- 一般車駐車場のコンコース寄りに、福祉サービス車両専用の乗降場を配置
- 中央部にゆとりのある歩行空間を配置し、憩いの場・賑わいの場を提供



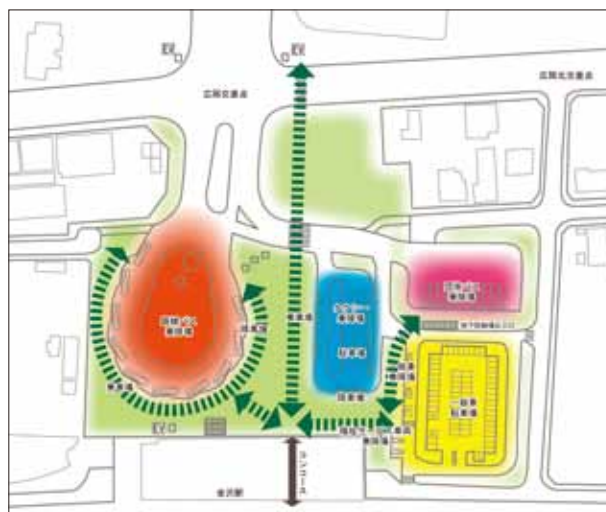
車両動線計画

- 路線バスと団体バス、タクシーと一般車の輻輳を避けるため、それぞれの走行車線を明確化
- 広場から流出する車両の混雑を緩和するため、一般車の流出を広岡北交差点に誘導



歩行者動線計画

- 金沢駅と駅西地域を直線でつなぐ歩行軸を確保（広岡交差点に横断歩道を新設）
- 車両と交差せず、各乗降場へのアクセスを可能とする歩行者動線を確保





施設諸元

路線バス乗降場

乗車場：8台、降車場：2台、待機場：6台

- 車道を横断せずに、すべての乗降場にアクセスできる楕円ロータリー形状としています。
- バスの乗車場と降車場には、シェルターと一部に防風板を設置しています。
- バスへの乗降を容易にするため、乗降場は、バスが正着しやすい切り込み型としています。



タクシー乗降場

乗車場：4台、降車場：2台、待機場：36台

- タクシー乗降場には、乗車場と降車場のほか、待機場を設置しています。
- 発車と到着のタクシーの輻輳を避けるため、乗車場と降車場を区分した配置としています。
- タクシーの乗車場と降車場には、シェルターと一部に防風板を設置しています。



一般車駐車場

**駐車場：68台（うち車椅子専用2台）
乗降場：6台（うち福祉サービス車両専用2台）**

- 一般車駐車場には、駐車場のほかに乗降場を併設しています。
- 駐車場への入出庫を分離し、車両が輻輳しない形状としています。
- 雨に濡れずに乗降ができるように、乗降場と車椅子専用駐車場にはシェルターを設置しています。



団体バス乗降場

乗降場：11台

- 団体バス乗降場を路線バス乗降場と分離して配置しています。
- 団体バス入庫時の混雑を回避するため、使用料金の精算を出庫前に行う方式を採用しています。
- 多くの利用客の待合スペースとして、シェルターを併設したゆとりある空間を確保しています。





歩行者を優先した空間整備

- 金沢駅西広場では、安全で快適に利用できるよう、歩行者を優先とした空間の整備を行っています。
- 「雨に濡れずに移動や乗降ができるシェルター」や「積雪時の歩行を円滑にする無散水消雪施設」に加え、総合案内や施設・誘導案内には「分かりやすいサイン」を設置しています。
- また、バリアフリー整備として、「福祉サービス車両用乗降場」の設置、「各乗降場の段差の解消」のほか、地下道への垂直方向の移動用に「エレベーター」を新設しています。
- 地下道では、「二段式手すり」の設置や「傾斜路スロープの勾配改善」及び「既設の視覚障害者誘導用ブロックの改修（規定の輝度比確保）」などを行っています。



シェルターと案内サインの設置



無散水消雪施設の整備



福祉サービス車両用乗降場



エレベーターの新設



二段式手すり・スロープの設置



地下道の整備

- 地下道の中央付近には、竹を植栽した休憩スペースを整備し、自然の採光（トップライト）による明るい空間を演出しています。
- 既存の地下道は、地上部の施設再配置に伴い、一部の出入口が不要になったことや、迷路性を解消するため、通路の一部を「自転車駐車場」や「防災倉庫」として活用しています。



竹の植栽とトップライトを設けた休憩スペース



自転車駐車場



全体計画平面図

広場全体の概要

- 位 置：金沢市広岡1丁目
- 規 模：全体面積 27,000㎡
(広岡1丁目広場2,400㎡、道路部 1,600㎡を含む)
- 財 源：社会資本整備総合交付金事業(金沢中央地区)
- 整 備 費：約26億円
- 設計期間：平成20年度～平成21年度
- 工事期間：平成22年度～平成25年度



ゆうよう
モニュメント「悠颺」

金沢市制100周年を記念して平成3年(1991年)に建設したもので、活力・魅力・潤いのある「新しい金沢」をイメージし、未来に向かって悠然と伸び行くことを願っています。

造形／蓮田修吾郎

路線バス乗降場

乗車場／8台 降車場／2台 待機場／6台



コンコース出入口

地下道出入口

金沢駅



シティゲート モニュメント「印象」^{かげ}光と翳

雨や雪の多い金沢特有の印象を表したもので、この場を訪れる人達にその印象を残したいとの思いが込められています。

設計・製作／池田晶一

タクシー乗降場

乗車場／4台
降車場／2台
駐車場／36台

団体バス乗降場

11台

一般車駐車場

駐車場／68台
一般車乗降場／4台
福祉サービス車両乗降場／2台

平面図(地下部)





デザインコンセプト

グランドデザイン

「創造の広場」＝“都市型・環境型・機能型の美しさを創り出す新しい空間”

都市型デザインの創造： 「明るく透明な解放感」「格調と質感」「新都心の象徴」

環境型デザインの創造： 「環境負荷の低減」「緑の成長と共に育む広場」

機能型デザインの創造： 「自己主張しない機能重視」「色褪せないシンプルさ」「バリアフリー」

デザインコンセプト

「水と緑と空 ～日本海に開く“時間と自然”の空間デザイン～」

明るく開放的なデザイン

- コンコース出入口から各乗降場をつなぐキャノピーやシェルターは、機能的でシンプルなデザインとし、明るく開放的な空間を創出しています。
- 「川・大地・森や草原」などの「自然の風景」を、広がりある歩行空間の中で表現しています。

玄関口としての演出

- 能登産のノトキリシマツツジを植栽し、日本海・能登に向けた玄関口を演出しています。

金沢駅西周辺の前風景を表現

- 金沢駅西周辺に、かつて広がっていたハス田やススキなどによるのどかな原風景を表現しています。

金沢の「和」の雰囲気、クラフト創造都市のイメージを表現

- 金沢の「和」の雰囲気を古くから金沢の背景を担っていた竹林や戸室石などで表現しています。
- 世界に認められた金箔箔などの技法を粋な演出として採用することで、「クラフト＆フォークアーツ」の情報を発信しています。



●もてなしドームや鼓門に象徴される「金沢駅東広場」のアーキテクチャ（建造物）デザインに対し、「金沢駅西広場」では、明るく開放的なランドスケープデザインとしました。

●また、金沢駅西広場の各施設のディテールに「金沢の歴史や風景」、「豊かな自然」、「金沢の伝統工芸技術」を表現しています。



キャノピー・シェルターデザイン

- コンコース出入口には「キャノピー（大屋根）」を、キャノピーと公共交通の各乗降場等を結ぶ歩行者動線上には、雨や雪に濡れずに移動ができる連続的な「シェルター」を設置しています。

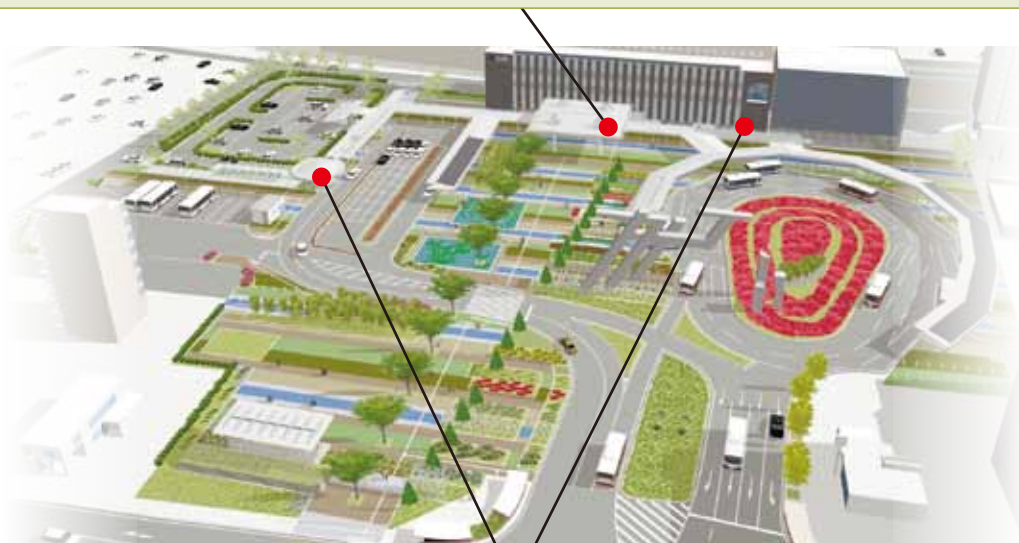
キャノピー（大屋根）

金沢駅西広場の全体が見渡せるよう、建築物（屋根と4本の柱）の基本要素のみで構成した開放的な空間を演出しています。

諸元

- ・構造：鉄骨造（屋根：システムトラス構造）
- ・面積：床面積・天井面積 576㎡（幅24.0m×奥行24.0m）
- ・高さ：総高さ 12.4m
天井高 7.0m

- 天井には、木目の優しさや暖かさを感じる金沢産の杉材を使用
- 天井や柱には、金沢の伝統工芸「金箔」による格調を表現
- 屋根にはトラス構造を採用し、その一部を仕上材で覆うことにより、シンプルでフラットなラインを形成
- 開口部にはトップライトを設け、重厚感のあるシステムトラス構造を見せるとともに、自然の光によりコンコース出入口の明るさを確保



シェルター

格調と質感を感じるフラットかつ美しいシルエットで形成し、軽快感を演出しています。

諸元

- ・構造：鉄骨造
- ・面積：床面積 3,037㎡、天井面積 3,415㎡
- ・高さ：総高さ 約4.0～5.5m
歩道部 3.0m、車道部 4.5m

- 天井には、木目の優しさや暖かさを感じる金沢産の杉材を使用
- 屋根の一部には、ルーバーと透明ガラスによるトップライトを設け、自然の光による歩行空間の明るさを確保
- 公共交通の各乗降場には、利用者の快適性に配慮した防風板を設置





植栽デザイン

落葉樹と常緑樹による歩行者空間

- 中央部には、落葉樹(ケヤキ)を直線的に、常緑樹(イヌマキ)は奥行感を強調した列植とすることで、金沢駅から駅西地域へ直線的に誘導する歩行者空間を創出しています。



四季折々の花や実・紅葉を楽しむ花壇

- 中央部に多種多様な樹種をストライプ状に植栽し、歩く毎に違う風景が見えてくる楽しさやシークエンスを演出し、四季折々の花や実・紅葉を体感できる花壇を配置しています。

息吹を感じる「春」



躍動する「夏」



彩りの「秋」



雪国の景「冬」



日本海・能登に向けたプロローグ

- 路線バス乗降場の中央部には、約1,000本のノトキリシマツツジを植栽し、金沢から日本海・能登へのプロローグを演出しています。



「和」の雰囲気づくり

- 古くからの金沢の風景を再現した「竹」を地上部と地下部の随所に植栽し、「和」の雰囲気を表現しています。



潤いと原風景を表現する水景施設

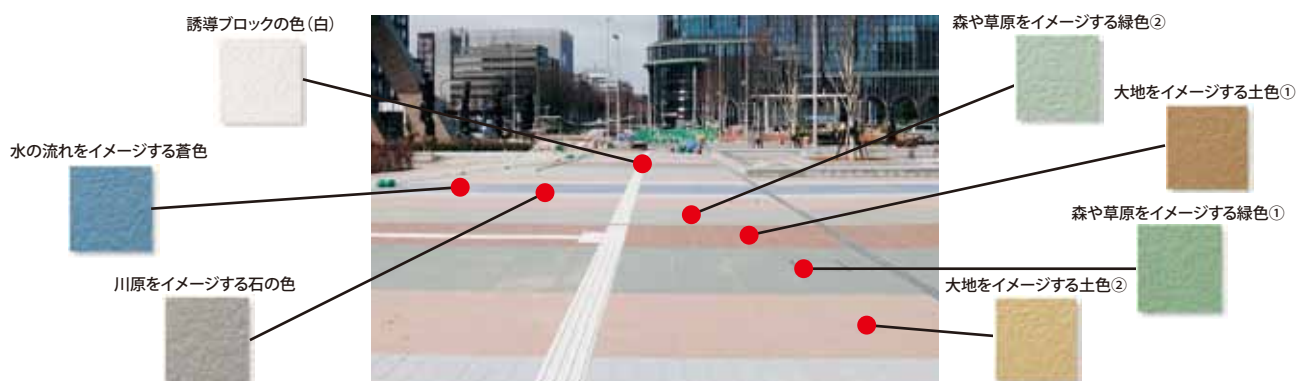
- 金沢駅西周辺に、かつて広がっていた原風景をハス池とスイレン池で表現しています。
- 水景施設の水源には、鞍月用水の水を利用しています。





舗装デザイン

- 歩行空間の舗装は、駅舎に平行に描かれた6色のストライプ状とし、中央部を歩くたびに、連続する四季折々の植栽と呼応して変化する自然の中を歩く情景を表現しています。
- 舗装の色により、自然をイメージする「水・大地・森や草原」などをモチーフとした物語性を演出しています。



夜間照明デザイン

- 照明にはLED照明を採用し、夜間における十分な明るさと安全性に配慮しています。
- 公共交通の各乗降場に連絡するシェルターには、ダウンライトのほか、視覚障害者誘導用ブロックの上部にライン照明を配置しています。
- 広場を象徴するキャノピーやモニュメントのライトアップにより、その存在を際立たせる演出をしています。
- 植栽部分には、LED照明によるガーデンライト(電球色)を配置し、ホタルが舞うイメージを演出しています。



広場の夜間景観



ライン照明



ライトアップされたキャノピー



ガーデンライト



環境負荷低減に配慮した取組み

- 環境負荷低減のため、「太陽光パネルによる発電システム」や「LED照明」を導入しています。
- 雨水を地下に貯留し、その水を路線バス乗降場の植栽への灌水に利用しています。



シェルターの太陽光パネル



LED照明

■太陽光発電システムの概要

- 使用パネル枚数：路線バス乗降場シェルター部【248枚】 タクシー乗降場シェルター部【112枚】
- 年間予想発電量：約20,000kwh／年



事業の経緯

年 度	概 要	
平成2年度	平成3年3月に金沢駅西土地区画整理事業により金沢駅西広場完成	
平成15年度	金沢駅西広場再整備基本構想策定	
平成16年度	金沢駅西広場再整備基本計画策定	
平成19年度	金沢駅西広場再整備基本設計	
平成20年度	金沢駅西広場再整備予備設計	第一回金沢駅西広場整備検討委員会開催(平成20年7月22日) 第二回金沢駅西広場整備検討委員会開催(平成20年12月1日) 第三回金沢駅西広場整備検討委員会開催(平成21年1月28日)
平成21年度	金沢駅西広場再整備予備設計	第四回金沢駅西広場整備検討委員会開催(平成21年7月7日)
	金沢駅西広場再整備実施設計	第一回金沢駅西広場整備デザイン検討会開催(平成21年8月12日) 第二回金沢駅西広場整備デザイン検討会開催(平成21年11月6日) 第三回金沢駅西広場整備デザイン検討会開催(平成22年3月17日)
平成22年度	金沢駅西広場再整備工事着工	
平成23年度	平成23年11月 路線バス乗降場供用開始	
平成24年度	平成24年10月 一般車駐車場、団体バス乗降場供用開始	
平成25年度	平成25年8月 タクシー乗降場供用開始	
	平成26年3月 金沢駅西広場再整備事業完成	

駅西が都心になった日

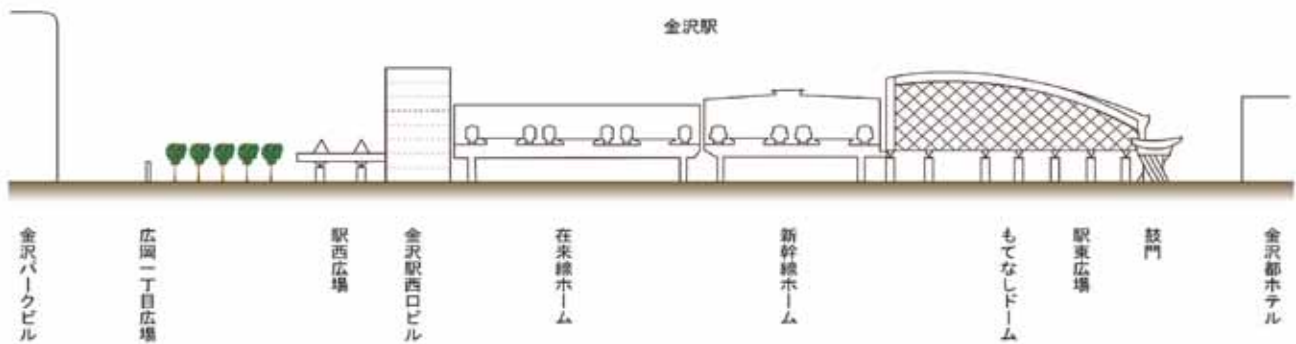
金沢駅西広場では石川の自然の大地と空、水と緑を表現しました。駅東広場は対照的に金沢の街の歴史的な重層性を表現する為に建築的なもてなしドームと鼓門になりました。

駅西は太古以来もつくり湧水の湿地、農地、集落のある地域で、南は加賀、北は能登、西は日本海につながっています。その土地柄を表現するために、大地は土と水と緑のアースカラーをストライプ状に配した床とし、空は大きく仰ぎながら風・雲・雨・雪を味わえる空間をめざしました。緑は土地柄を意識した種を選び、ハス・睡蓮・セリなどの水生やノトキリシマツツジの群落、造園としては珍しいハマナスやススキ、そして竹林などを柵状に並べた植物園的なデザインとしました。

当然のことながら駅前広場は交通結節点としての利便性確保は重要課題です。駅西の基本構成は駅東と同じく中央が人々の歩行と滞留の空間であり、左右がバス・タクシー・自家用車の乗降空間です。従って駅のコンコースを出ると石川の大地と空と水と緑の広場に入り、柱状彫刻の結界を経て街に至るようになります。全国ほとんどの駅前広場はコンコースを出ると車が並んでいて、街へは迂回してゆくのは大きく異なる金沢の特徴です。

また駅西広場の完成は40年以上に亘って様々な事業展開により、金沢が一点集中型の城下町的都市から軸状で機能分担型の都市へ転換した時でもあります。すなわち駅西地域での50m道路と膨大な面積の土地区画整理事業、駅東西間の一体化を進める連続立体交差化事業、駅東再開発事業、新幹線関連工事など多数の先行事業の締めくくりがこの駅西広場であり、使用開始は金沢の都市構造が軸状に転換し、港までの駅西地域が都心に組み込まれた日なのです。あとは新幹線開通を待つばかりです。

金沢駅西広場再整備デザイン検討会座長 **水野 一郎**



金沢駅西広場再整備検討組織 (敬称略。役職等は当時のもの。)

金沢駅西広場再整備検討委員会 (H20)

小堀 為雄	金沢大学名誉教授
矢島 隆	日本大学客員教授
水野 一郎	金沢工業大学教授
高山 純一	金沢大学理工学域教授
山田 文代	石川県建築士会評議員
中川 博義	西日本旅客鉄道(株)金沢支社企画担当次長
宮岸 武司	北陸鉄道(株)常務取締役 ^{※3}
本堂 紀義	石川県タクシー協会専務理事
北村 哲志	金沢駅西開発協議会会長
岡田 茂樹	駅西まちづくり地権者の会会長
田原 弘之	駅西まちづくり地権者の会常任理事
竹村 裕樹	石川県土木部都市計画課長 ^{※1}
山上 幸一	石川県警察本部交通部交通規制課長 ^{※2}

金沢駅西広場再整備デザイン検討会 (H21)

水野 一郎	金沢工業大学教授
黒川 威人	金城大学短期大学部教授
鰐 隆弘	金沢美術工芸大学准教授
山田 文代	石川県建築士会評議員

金沢駅西広場整備アドバイザー (～H25)

水野 一郎	金沢工業大学副学長
鰐 隆弘	金沢美術工芸大学教授
蜂谷 俊雄	金沢工業大学教授

※1 前任者：辻 啓一(第3回まで)

※2 前任者：西本 憲二郎(第3回まで)

※3 前任者：杉村 茂一(第3回まで)



2015年春・北陸新幹線開業

金沢駅西広場

- 発行日／平成26年3月22日
- 発行／金沢市都市整備局都市計画課
〒920-8577 金沢市広坂1-1-1
TEL076-220-2351



●金沢駅西広場のテーマカラーは加賀五彩の「草色」を採用しています。